Campus Today

松本歯科大学
発行所　学校法人　松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎（0263）52−3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

学生代表団が中国河北省の承徳医学院で初の臨床実習

学術から文化まで充実のプログラムで学び 同志の友情深める
―歯科医学のさらなる発展をめざして―

第5学年の東本珠佳さん、佐藤瑠海君、久藤維弓那さん、江 珮寧（コウ ハイネイ）さん、廖 翎妃（リョウ レイヒ）さんの5人は8月31日（日）から9月8日（月）までの9日間、本学の学生を代表して、中国河北省の承徳医学院で行われた臨床実習プログラムに参加した。本学は2024年1月に承徳医学院と学術交流・友好協力協定を締結したばかりで、今回が初めての学生派遣となった。中国側には学術から文化までさまざまなプログラムをご提供いただき、学生たちは充実した日々を過ごした。参加学生を代表して東本さんに貴重な体験を振り返ってもらう。

承徳医学院内で、左から中村歯学部長、第5学年の廖さん、佐藤君、久藤さん、江さん、筆者、楊准教授

今回は私にとって初めての中国訪問であり、文化や言葉の違いに不安もありましたが、研修を通して多くの学びと経験を得ることができました。

初日はホテル到着後、遅い時間にもかかわらず承徳医学院の張 学良副党委書記らが温かく出迎えてくださり、歓迎会を開いていただきました。先生方の温かなもてなしにより、安心感に包まれると共に、研修に対する期待が一層高まりました。

2日目は承徳医学院の唐 世英党委書記と李 玉紅学長より歓迎セレモニーをしていただきました。その後学院を見学し、広大なキャンパスや整った設備に圧倒されました。学院歴史館では学院の歩みを知り、長い歴史を持つ教育の重みを実感しました。東洋医学館では、日本では学ぶ機会の少ない漢方について説明を受け、組み合わせや効能、治療法を学びました。さらにAI診断機も体験し、先進的な技術導入を目の当たりにしました。

3日目から臨床実習が始まり、口腔科・保存科・小児歯科などを見学しました。抜歯やマイクロスコープを用いた根管治療、口腔内スキャナーによる印象採得など幅広い診療を拝見し、臨床実習中の私たちにとって、日本での学びと比較し応用する貴重な機会となりました。

4日目には手術見学をしました。口腔科の名誉主任の霍 峰先生、主任の王 鵬先生が私たちの訪問に合わせ手術を多く組んでくださったおかげで、骨折、耳下腺腫瘍、皮膚移植、3D映像を用いた内視鏡手術など数多くの症例を拝見できました。患者数や手術件数の多さには驚かされ、地域の人口規模や豊富なスタッフ配置による効率的な診療体制を実感しました。また、多くの女性医師が第一線で活躍する姿も印象的で、性別にかかわらず力を発揮できる環境は、自身のキャリア形成を考えるうえで大きな刺激となりました。

文化研修では、避暑山荘や故宮、普寧寺などを訪れました。壮大な庭園や伝統的な建築様式は、中国文明の奥深さを直接感じさせるものでした。万里の長城はあいにくの雨でしたが、晴天とはまた違った趣があり、強く印象に残りました。短期間で数多くの世界遺産を巡ることができたのは先生方のおかげであり、医療研修とともに国際的な視野を広げる機会となりました。また、学生交流も大きな収穫となりました。承徳医学院の学生は明るく活発で、バドミントン交流会では言葉の壁を越えて自然に打ち解けることができました。4月に本学へ研修に来ていた学生と再会できたことも大きな喜びでした。異なる地で再び友情を深められたことは、この研修をより特別なものにしてくれました。同じ医療職を志す仲間と交流を重ねられたことは、この研修の価値を一層高めるものとなりました。

世界遺産の万里の長城を見学する本学学生ら

最終日には盛大な送別会を催していただきました。羊の丸焼きや、普段は口にできない特別な料理が並び、心のこもったおもてなしに支えられて研修を締めくくることができました。

この研修を通じて、臨床はもちろん文化や交流を通じ国際的な視野を広げることができました。今回の経験は私の人生において忘れられない財産であり、この学びをしっかりと今後に活かしていく所存です。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった矢ヶ﨑 雅理事長、宇田川信之学長、引率してくださった中村浩彰歯学部長、楊 静准教授、そして承徳医学院の霍 峰先生、王 鵬先生をはじめとする全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

（第5学年　東本珠佳）

第6学年・野口 宝さんが研究発表
2025年度SCRP日本代表選抜大会

公益社団法人・日本歯科医師会とデンツプライシロナ社が主催する令和7年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会が8月5日（火）、東京・市ヶ谷の歯科医師会館で開催され、第6学年の野口 宝さんが本学代表として出場し、英語で研究発表を行いました。

スチューデント・クリニシャン・プログラムは、一九五九年にアメリカ歯科医師会が創立百周年を迎えるにあたり「歯科学生による研究の実践発表」という企画をデンツプライ・インターナショナル社に後援依頼をしたことから始まります。今では世界5大陸に広まり、歯科学生が自らの研究成果を発表する国際大会として定着しています。日本では一九九五年から日本代表選抜大会がスタートし、今回で31回目となる本年度は18校の代表スチューデント・クリニシャンが出場しました。

野口さん（左）と指導した生理学講座のザキール講師

本大会は、全国から選抜された歯科学生が歯科医療に関する研究成果を英語で発表し、研究内容やプレゼンテーション能力を競い合います。野口さんは「Acetaminophen attenuates capsaicin-induced oral burning sensation: implications for alleviating symptoms of Burning Mouth Syndrome」というテーマで、口腔灼熱症候群に対する有望な治療薬の可能性について報告しました。実験やデータ解析、英語演説の練習などに多くの時間をかけて臨みましたが、惜しくも上位入賞はなりませんでした。それでも、この経験は野口さんにとって大きな学びとなり、今後の成長につながる貴重な財産になったことでしょう。将来、研究マインドを持った歯科医師として活躍されることを心から期待しています。

（生理学講座　教授　北川純一）

ギビング・キャンペーン
10/10㊎〜19㊐

本学は10月10日（金）から19日（日）まで開催される学生による全国的な資金調達イベント「ギビング・キャンペーン2025」に参加する。

期間中、専用サイトを閲覧し、参加大学の中から応援したい大学を選び、その支援者となって気持ちを「応援投票」で表現、または寄付を行うと、大学やクラブに活動資金が配分される流れとなる。

「日本に明るい未来をもたらそう」などと、株式会社アルムノートが運営し、各参加大学が主催する。大学には獲得した「応援投票」数に応じてイベントの協賛企業の協賛金が配分され、寄付が「大学基金」を通じて届く。

本学は学内の二つの学生組織、体育連絡協議会と文化連絡協議会の学生が中心となって、より多くの応援を寄せていただけるよう準備を進めている。

ギビング・キャンペーンの詳細はイベント情報を随時更新している専用サイトへアクセスしてください。

短期的な損得勘定は日本全体の成長を妨げる

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授
飯島　勲

今月号では『プレジデント』10月3日号「リーダーの掟　飯島 勲」より、「情けない！首相を目指さず政治家と言えるのか」の記事を要約して紹介します。

9月初旬、自民党はようやく参院選総括の取りまとめを発表した。

私の正直な気持ちをいえば、石破首相に続投してもらいたい。愛煙家というところに共感できるから……というのは冗談で、首相としての仕事ぶりが決して悪くないからだ。衆参両院で野党が過半数を占める中、政策ごとに野党各党の話を聞いて政を進める石破首相の姿勢が、うまくはまっているように思う。

目先の利益にとらわれてはいないか。自民党総裁は、自らの政策を広く国民に周知できるチャンスである。短期的な損得を気にせず、立候補して日本の将来像について議論を戦わせてもらいたい。政策が国民に認められれば、現在の国会の議席がどうであろうと、首相への道が開けるはずである。

これまでも自民党総裁選は、活発な議論の中から次世代のスター政治家を生み出し、新しい支持者を獲得することで、長期政権を担う原動力となってきた。

昨年の衆院選、今年の参院選を通じて、有権者の支持を伸ばした国民民主党の「手取りを増やす夏」というフレーズも、ある意味で目先の利益を求める人々に刺さったのだと思う。

私が思うに、最近の日本人は楽してもうけたいという意識が強くなったように感じる。さまざまな雑誌や本で投資が取り上げられている。書店に行っても、株や不動産の投資入門本をよく見かけるから、それだけ投資に関心のある人が多いのだろう。

私が若いころは、「稼ぎたいならとにかく副業」だった。24時間しかない一日を有効に使いたいと、効率的に働く時間を捻出して働いた。高度経済成長期の空気感から来る勢いもあったかもしれないが、お金が欲しければ働くのが一番と考えていた。

だが、今では働くよりも投資でお金を増やそうとする人が多い。悪いことではないと思うが、お金を稼ぐ基本は働くことである。基本をおろそかにしたまま投資でお金を増やそうとすることに、少し違和感を覚える。

自民党総裁選に5人が出馬を表明

日本は社会インフラが整っているので今以上に働くことには消極的でも、生命の危機に脅かされるほどの困窮に追い込まれることはほとんどない。しかし、収入が多いわけではないから、貯蓄もなく、現状への不満や将来への不安が生じると、楽してもうける方法を探すようになる。その結果、詐欺被害に遭ったり、闇バイトに手を出してしまう人も出てくる。結果として、彼らの将来の希望は失われてしまうのである。どんなに対策を強化しても、特殊詐欺が一向に減らないのは、短期的な利益を求める人々の心の問題も関係しているのだろう。

目先の利益に走ることが将来の不安を大きくするという点では、消費税減税・廃止も似たところがある。消費税がなくなれば、たしかに日々の出費は減るだろう。しかし、医療や介護などの社会インフラを維持していくためには、消費税は重要な財源である。それがなくなれば、生活水準の低下につながるだけでなく、所得税などの直接税の負担増は必至で、将来の生活はさらに厳しくなってしまう。今こそ、有権者は目先の利益に踊らされず、将来を見据えた一票を投じてもらいたいものである。

私が尊敬する田中角栄元首相の「日本列島改造論」は、1972年に発表された。冬季は雪に閉ざされる新潟県出身の田中元首相が、その厳しい環境を打破したいと考え出したものだ。当時の日本人は、明確な将来へのビジョンとして熱狂的にこれを支持した。現在の新幹線や高速道路網なども、日本列島改造論をきっかけに整備が進んだのである。

現代はというと、もう少し生活が楽になってほしい、といったレベルの不満がほとんどである。田中元首相が「日本列島改造論」を生み出すきっかけとなったような、国の在り方を変えなければ解決できないような大きな課題は、なかなか見当たらない。私は、最近の政治家が日本の将来へのビジョンを語らないことを批判してきたが、現代の日本ではこういった大きな社会課題が見つからないことが背景にあるのかもしれない。

LGBTQ＋のこどもたちを地域で大切に支えよう！
長野県小児保健研究会を開催

坂井雄貴先生の特別講演

9月7日（日）、本学図書会館にて令和7年度の長野県小児保健研究会が開催された。総会、会員の演題発表後、「LGBTQ＋のこどもたちを地域で大切に支えよう！」のテーマで講演Ⅰ、Ⅱと特別講演が行われた。

講演Ⅰでは松本協立病院小児科の光武　鮎先生に「自分ごととして考えるSOGIE・LGBTQ＋」、講演ⅡではNPO法人子ども・若者サポートはみんぐ／りんごっ子保健室キャラバン隊の坂井真琴先生に「だれもが自分らしく生きられる社会へ―性の多様性をめぐるこどもたちの〝今〟―」の演題で講演していただいた。

特別講演では一般社団法人にじいろドクターズ／ほっちのロッヂの診療所の坂井雄貴先生に「多様なセクシュアリティを持つ子どもの支援―医師の立場からのアドボカシー活動を通して」と題して講演をしていただいた。坂井雄貴先生は2020年に長野県軽井沢町に移住され、「ほっちのロッヂの診療所」院長として地域医療に従事する傍ら、2021年に一般社団法人にじいろドクターズを設立。代表理事としてLGBTQ＋と医療について医療職に向けた啓発活動に取り組まれ、家庭医として小児・思春期のケアにも携わりながら、学校医・園医として包括的性教育にも関わられている。特別講演では具体的な実践の紹介や、ことばの伝え方や場の作り方、日々肌で感じている子どもの反応や社会の変化についても説明していただいた。坂井先生は活動を通して「アドボカシー」を最も大切にしている。これは「社会的に弱い立場に置かれる人々の権利を代弁・擁護する行為」を指しており、LGBTQ＋の子どもは、声を上げられずに人知れず悩んでいることから、「周りにいる大人が適切な知識を持ち、手を差し伸べることで、救われる子どもがたくさんいるはずである」と述べられた。

長野県小児保健研究会は、長野県内で活動している小児保健に関わる専門家（小児科医師、歯科医師、看護師、保健師、養護教諭、児童福祉施設職員、幼稚園、保育園関係者、行政関係者など）からなるユニークな学会で、毎年夏ごろに本学も共催して行われている。

（小児歯科学講座　教授　大須賀直人）

「AIを活用した2025～2060年の歯科業界推移予測とその予測モデルから逆算した歯科法人運営」
2025年度第2回FD研修会

本学教職員の質を高めることを目的としたFD（ファカルティ・ディベロップメント）研修会が9月18日（木）本館601教室にて、八丁裕次先生（医療法人・永孝会理事長、本学25期生）を迎えて開催された。

八丁先生は、2009年に医療法人を設立以来、全国（北海道、東京、山口、福岡、沖縄）に12歯科医院を展開し、本年4月には、歯科衛生士養成学校を開校した。この運営拡大路線の背景として、2025年問題が存在し、歯科業界に与える影響の予測についてお話された。

AIを活用した歯科業界の推移予測モデル（2025～2060年）によると、オーラルフレイル対策、口腔機能の維持・管理が重要課題となる。さらに、要介護高齢者の増加により、医院外での診療ニーズが拡大する。そして、今後「予防歯科」が主役となり、これを支える歯科衛生士の育成・供給こそ、持続可能な事業モデルの構築に直結することを解説した。

八丁先生の講演では、歯科医師の高齢化の進行や歯科衛生士の不足、そして、歯科技工士の深刻な人材減少と高齢化の未来予測を示した。つまり、人口の高齢化による医療ニーズの高まりと歯科医療人材の減少が同時に起こるというミスマッチが2025年を境に急激に始まるわけであり、この問題に対する対応が喫緊の課題となるのである。最後に、2025年問題に対して、我々のスタンスとしては、「変化」を「脅威」ではなく、「最大のチャンス」として捉え、新たな歯科医療の姿を創造しましょうと呼びかけて講演を締めくくった。

講演する八丁先生

（学長　生化学講座　教授　宇田川信之）

全身疾患と口腔
白血病④

大学誌編集主幹
特任教授
笠原　浩

創立者の「視点」

口腔内出血ということで、白血病などの血液疾患から、日常診療で遭遇する頻度が高い抜歯後の出血まで話を進めてきました。

ここで止血のメカニズムについて復習をしておきましょう。怪我や手術などで血管が破れると、血液中の血小板が集まって血栓を作ります。微小な血管ならそれだけで止血します（一次止血）。次の段階では凝固因子が血小板の周りで次々に反応していきます。まず、血小板や傷ついた組織から放出されたトロンボプラスチンによって血漿中のプロトロンビンがトロンビンとなり、その作用で血漿中に溶けているフィブリノゲン（線維素原）がフィブリン（線維素）に変化して、網目状のしっかりした膜を作り、血小板の血栓を固めます（二次止血）。これが血餅（いわゆるカサブタ）です。血餅は損傷した血管や組織が再生するまで、創面を保護すると同時に、外部からの細菌の侵入を防ぐ大切な役割を果たしてくれます。抜歯創もこうした血餅が、さまざまな微生物が存在している口腔内でもしっかりと創面を守ってくれます。

抗菌剤が知られていなかった昔には、血栓の「腐敗」が致命的な結果になることを恐れて、抜歯創にはリバノール・ガーゼを詰め込んで、毎日洗浄に通院させるのが常識だった時代もありました。血栓→血餅を大事にする現代から見ると、とんでもない誤りです。

患者さんにも、無闇に触ったり、取り除こうとしないように、注意してあげてください。万一、剥がしてしまって出血するようなら、清潔なガーゼを噛んで止血させ、血餅の再形成を待ちます。血餅はからだの他の部位では赤黒い色になりますが、口腔内では赤血球が洗い流されて黄色っぽい色になるため、化膿したのではないかと心配される患者さんもいますが、これは線維素の色ですから心配ありません。

凝固した血液は数日後には再び液体化していきます。これは血液中のプラスミノゲンが活性型のプラスミンに変化してフィブリンを分解するためで、血管内の血栓など止血後に不用となった血栓を除去するために必要なメカニズムです。線維素溶解現象と呼ばれますが、ときには異常に亢進して後出血の原因となることもあります。抗プラスミン剤の注射で対応できます。

血栓がきちんと形成されずに、骨面がむき出しになっているような状況をドライソケットと呼びます。しばしば強い痛みを伴います。局所の感染や周囲組織の阻血と関連して発生するようです。治療法としてはとりあえずは創面の清掃と軟膏や仮封剤などによる創面の保護、鎮痛剤や抗菌剤（感染への対応）、根本的には掻把手術による血栓の再形成といったところです。

筆者自身の研究では、手術部の組織を蒼白化させるようなアドレナリン含有の局所麻酔薬の浸潤麻酔と無関係ではないように思われます。下歯槽神経ブロックと頬神経ブロックのみでの施術では、ドライソケットが多発すると言われている下顎智歯でも、全く経験しないからです。

教育の質の向上をめざしてSD研修会を開催

「医歯二元論から出発した我が国の歯科医学の歴史と将来展望」

日本学士院会員・須田立雄先生が講演

本学教職員の職務の質的向上を目的としたSD（スタッフ・ディベロップメント）研修会が8月22日（金）本館601教室において、須田立雄先生（東京科学大学栄誉教授・日本学士院会員）により「医歯二元論から出発した我が国の歯科医学の歴史と将来展望」という演題で行われた。

須田先生は、歯科医師の家系に生まれ、東京大学理科Ⅱ類に入学し教養学部で2年間を履修したあと、東京医科歯科大学歯学部に編入学し、1960年歯学部を卒業した。その後、昭和大学歯学部生化学講座に初代教授として赴任した。

講演する須田先生

講演の中では、骨代謝研究の黎明期からCa代謝を調節するビタミンDの研究、つまり、活性型ビタミンDの発見と構造決定、その合成誘導体アルファロールを骨粗鬆症治療薬として創成するとともに、活性型ビタミンDによって誘導される破骨細胞分化因子ODF/RANKLの発見についてお話しされた。

また、米国のスペースシャトル『エンデバー』を用いた日本初の宇宙実験（ふわっと-92）結果について詳しく解説された。これらの業績により、須田先生は、紫綬褒章、朝日章、日本学士院賞、そして2021年には文化功労者顕彰を歯科界で初めて受けられた。

臨床歯科医学に大きな影響を与えたと考えられる研究について、二つ言及された。

一つは、東京工業大学出身の中林宣男先生による4-META（スーパーボンド）と呼ばれる接着剤の発明である。この接着理論が歯科医学に与えたインパクトは測りしれない。もう一つはスウェーデン・ヨーテボリ大学のブローネマルク先生による骨とチタンの接着理論―オッセオ・インテグレーション―の発見である。これらの発明・発見は、医歯二元論としての研究の成功例である。

須田先生の師である米国Wisconsin大学のHector DeLuca先生から伝授された言葉、“Science is fun”（研究することは楽しい）についてもお話しされた。すなわち、科学は私達にワクワク感・ゾクゾク感を感じさせてくれ、研究者を平等に扱ってくれるということである。そして、結論として、科学は人生を賭けるに足る仕事であることを示された。

SD研修会は、教職員を対象とする本学の人材育成の取り組みの一つであり、講演翌日以降に配信された録画聴講を含めほぼ全職員が受講した。

（学長　生化学講座　教授　宇田川信之）

41期生・堀内竜太郎先生

日本口腔診断学会誌の優秀論文賞を受賞

一般社団法人日本口腔診断学会（野村武史理事長）の令和7年第1回理事会、代議員会が9月5日（金）、東北大学歯学部において開催され、本学病院初診室（総合診断科・総合診療科）元助手で現在は竜歯科クリニック院長の堀内竜太郎先生（41期生）が、日本口腔診断学会誌の優秀論文賞を受賞した。

今回受賞した原著論文は「歯科ドック受診者の健診結果についての検討」（堀内竜太郎、高谷達夫、喜多村洋幸、岩崎由紀子、伊能利之、根津英之、森啓、大木絵美、脇本仁奈、宍戸淑子、出分菜々衣、吉成伸夫、内田啓一　日本口腔診断学会雑誌 2024年37巻2号 P143-150）である。

研究の内容は、本学の人間ドックを受診し、歯科ドックを希望した1154人の健診者について、長年にわたる歯科ドックのデータ分析を詳細に行い、従来の歯科健診では見過ごされがちだった口腔内の潜在的なリスクの検討を行ったものとなる。

受賞した堀内先生（左から2人目）

受賞にあたり、堀内先生は「今回の受賞を大変光栄に思います。この論文が、単なる治療の場ではない、口腔全体の健康を生涯にわたって守るための歯科医療の重要性について、社会に広く知っていただくきっかけとなれば幸いです」と述べた。

今回の研究成果は、今後の歯科医療における予防医学の発展に大きく貢献するものであり、松本歯科大学病院歯科ドックの普及とともに、より質の高い口腔ケアが多角的な取り組みによって実現されると期待されるものである。

（病院初診室（総合診断科　総合診療科）特任教授　内田啓一）

病院だより vol.68

地域連携歯科（3）

介護施設に広がる口腔ケア

～歯科職種と施設職員の協働～

地域連携歯科講座は、塩尻市の医療法人元山会中村病院に併設された「介護老人保健施設ロングライフ」と「介護医療院縁ライフ」において、2024年度介護報酬改定で「口腔衛生管理加算」が新設されたことを契機に、従来の歯科訪問診療とは別に、入所高齢者の口腔ケア支援に取り組み始めました。

口腔衛生管理加算は、介護職員と歯科職種が連携して入所者のQOL向上を図ることを目的として新設されました。歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が口腔内の状態を評価し、介護職員に対して技術的助言や指導、専門的な口腔ケアを行う内容となっています。

実際の取り組みには、簡便かつ非歯科職種でも活用可能な「OHAT-J（Oral Health Assessment Tool - Japanese version）」を導入しました。

OHAT-Jは唇、舌、歯肉・粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清掃、歯痛の8項目を0～2点でスコア化するもので、口腔状態の変化やケアの必要性を客観的に捉えることができます。

当初は歯科衛生士と施設職員の評価結果にばらつきが見られましたが、継続的な実施により、多くのケースで一致するようになりました。これは介護職員が「口腔を診る力」を高めていることを示す結果であると考えています。評価に取り組んだことで、利用者の口腔環境の改善が確認された事例も徐々に出てきています。また大きな変化として口腔に関する相談が増え、歯科訪問診療への適切な移行にもつながっています。

入所高齢者の口腔ケア支援に取り組む歯科衛生士

一方で、歯科衛生士の配置体制、施設のマンパワー、口腔ケアへの認識差など課題も明らかになってきました。これらは今後、施設と歯科側が協力して改善を図っていく必要があると考えています。

現在、リハビリテーション・栄養・口腔は「三位一体」として高齢者の自立支援や重度化予防に寄与することが期待されています。歯科職種には、口腔・嚥下機能の維持改善、口腔衛生管理による誤嚥性肺炎の予防、経口摂取の維持確保といった役割が求められています。

口腔ケアに継続的に取り組むことは、利用者の口腔機能の維持・改善だけでなく、安定した生活基盤の確立に寄与できることだと考えています。今後も施設職員の皆さんと力を合わせ、共に成長しながら、高齢者の生活を守る口腔ケアを進化させていきたいと考えています。

（地域連携歯科講座　助手　杉田寛和）

26期生・上村裕希先生（五段）が団体戦優勝に貢献

第35回全日本歯科医師剣道優勝大会

東京都江戸川区夢の島のBumB東京スポーツ文化館で8月10日（日）、第35回全日本歯科医師剣道優勝大会（全日本歯科医師剣道連盟主催）が開催されました。

熊本市の上村裕希先生（26期生、五段）が岩手医科大学明心会の副将として応援参加され、5人制18チームが参加する中、団体戦優勝を果たされました。

上村先生は、緊張感溢れる場面で見事な技を次々と決め、チームの優勝に貢献されました。

試合後は、場内から大きな拍手が湧き起こっていました。また、本学関係では愛知県の椎名哲郎先生（43期生、二段）も個人戦に出場し、健闘されました。

同会場では第57回全日本歯科学生体育大会剣道部門も開催されており、剣道部員もその白熱した試合を応援することができました。

団体戦優勝した剣道部員ら

歯学体、そしてこのOB戦の応援のために顧問の金銅英二教授（衛生学院長）をはじめとし、横浜市の高橋雅仁先生（31期生）、広島県の山口久穂先生（43期生）、東京都の宇田川　琢先生（43期生）、歯科衛生士OGで千葉県の松沢　舞さん（2019年度卒）、そして菊池繁仁先輩も駆けつけてくださいました。

OBの先生方の剣道を見せていただき、改めて日々の稽古の大切さ、継続することの大切さを教わりました。私たち現役部員も勉学と共に剣道の稽古も全力で臨みたいと思います。

（第4学年　剣道部主将　橋本ひかる）

本学歯科医師臨床研修プログラムのプログラムⅡ

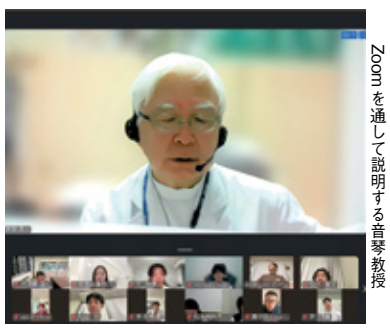
WEB会議システムZoom説明会開催

本学の歯科医師臨床研修プログラムのプログラムⅡで、本年度の臨床研修医7人が協力型（Ⅰ）臨床研修施設に出向するのに先立ち9月18日（木）、Zoomにて説明会が開催された。

本学のプログラムは、建学および病院の理念の下に、歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令に基づき行われる。歯科医師国家試験合格直後の歯科医師に対し研修歯科医の身分をもって、1年間の臨床研修期間を通して、歯科医師としての人格を涵養し、一般的な歯科診療に対する基本的・総合的歯科診療能力（知識、技能、態度）を身に付け、厚生労働省の提示する到達目標を達成するために計画、作成されたものである。

このプログラムは本学病院と研修協力施設とが協力して行う単独型臨床研修方式および、これに協力型Ⅰ臨床研修施設の協力を得て行う管理型臨床研修方式を用いたプログラムが作成されている。

プログラムⅡの管理型臨床研修プログラムでは、全国各地に所在する協力型（Ⅰ）臨床研修施設の協力を得て、地域医療を始めとして、種々の研修到達分野（項目）を研修できると同時に、第1次歯科医療である「かかりつけ」歯科医的な初期総合臨床研修が可能である。


Zoomを通して説明する音琴教授

説明会では研修施設、担当者、研修歯科医および病院事務担当者も参加し、自己紹介の後、音琴淳一委員長の挨拶が行われ、歯科医師臨床研修の概要、研修目標や評価方法について説明がなされた。

7人は10月1日から、県内外の5施設で4カ月間の研修に臨む。

（プログラムⅡ責任者（小児歯科学講座　教授）　大須賀直人）

Alumni News
松本歯科大学校友会

兵庫県支部　支部設立40周年記念式典
橋本芳紀兵庫県歯科医師会会長、矢ヶ﨑 雅理事長ほか
多数の来賓を招き盛大に開催

兵庫県支部設立40周年記念式典が8月24日（日）、神戸市中央区のＡＮＡクラウンプラザホテル神戸で開催された。

記念式典に先立ち日本歯科医学会会長小林隆太郎先生をお迎えし『歯科界活性化の潮流 ― 命を守る「口腔健康管理」のチカラ』と題して記念講演が行われた。その内容はこれからの歯科界の活性化を示したものとなっており、多くの聴衆に大きな感銘を与えた。

岡本兵庫県歯科医師連盟会長、矢ヶ﨑理事長と校友会本部役員ら来賓を囲み記念撮影

記念式典は橋本芳紀兵庫県歯科医師会会長、岡本浩一兵庫県歯科医師連盟会長、本学からは矢ヶ﨑　雅理事長（校友会会頭・会長）をはじめ、本部役員、各県支部長、県下各歯科大学・大学歯学部同窓・校友会会長など、日ごろよりお世話になっている多数のご来賓をお招きし開催の運びとなった。

林　直樹実行委員長（11期生）の開会の辞に始まり、冨田千秋支部常務理事（11期生）の物故会員の紹介があり、会場全員で弔意黙祷を捧げた。

その後、中野訓夫支部会長（11期生）が「歴代会長の意志を引き継ぎ、役員・会員が一致団結し今日この日を迎えられました。これもひとえに多くの先生方に支えていただいたお陰です」と式辞を述べた。

来賓紹介、祝辞、祝電披露の後、中野支部会長から支部設立、永年の功績を称え斉藤　栄先生（3期生）をはじめ、6人の先生方に感謝状と記念品が贈られ、岩本雅章支部副会長（12期生）の閉会の辞にて終了した。

引き続き記念祝賀会が催され松川　茂実行副委員長（11期生）の開会の辞、宇田川信之本学学長のご祝辞、岩手医科大学歯学部同窓会兵庫県支部長坂井　論様の乾杯のご発声にて開宴となった。

和やかな雰囲気のなか、前日に水揚げされた生マグロを使った解体ショー、神戸南京町龍獅団による獅子舞演舞があり会場内は最高潮となった。

宴の後半では設立40周年の歩みを懐かしい写真を使ったスライドショーとともに足跡を巡っていただいた後、これからを担う在学生・新入会員の紹介を行った。

宴が果て、金銅英二本部常務理事（衛生学院長）によるハモンドオルガン演奏で校歌斉唱が行われた。そして岩本正人支部顧問（10期生）の閉会の辞をもって盛会裏に終了した。

（兵庫県支部　31期生　鍋山篤史）

香川県支部　夏の納涼会を開催
母校の安泰とさらなる発展を期待して

本学のパンフレットを手にする香川県支部の先生方

8月23日（土）、校友会香川県支部の夏の納涼会が丸亀市オークラホテルで開催されました。

少人数の集まりでしたが、大学から取り寄せたリーフレットを手にして記念写真を撮りました。窓からは瀬戸大橋を望むことができます。このリーフレットはどなたが編集されたか知りませんが、大変ユニークな仕上がりになっています。様々な経歴がある入学者がいることが解り、バラエティーに富んでいますが、有名進学校からの現役入学者のプロフィールが入っていると一段と受験者にアピールできると思います。

私立歯科大学を選ぶ基準としては、学費や国家試験合格率に重きを置くのは当然です。そもそも大学の格付けには、伝統や建学の理念や教職員・学生のレベルを考慮して考えなければなりません。しかし、現実には偏差値が高く、有名進学校からの入学者が多い大学が評価されるのであって、高校の進学指導教員や受験生およびその保護者もそう思っています。そういう意味で不本意ながら偏差値を高める努力が必要でしょう。

あらゆる意味で母校が日本の歯科大学・歯学部のトップクラスになることを期待しています。そうなると大学も安泰で、卒業生（校友）も大なる支援（寄付等）をすることでしょう。

（香川県支部　7期生　中井　護）

京都府支部　令和6年度「鴨の会」通常総会を開催
武田会長の後任に田中豊彦先生を満場一致で推挙

7月12日（土）、エースホテル京都において「令和6年度鴨の会通常総会」が開催されました。

当日は卒業生18名が集まり、和やかな雰囲気の中での開催となりました。

総会は守安攝子先生（4期生）のご進行にて、武田　淳会長（4期生）からご挨拶をいただきました。

武田会長は、鴨の会発足当初より長きにわたり会長職を務められ、京都支部の卒業生をまとめるとともに、本校や他県校友会の行事にも積極的に参加されるなど、多大なご尽力をいただきました。

今回の総会では、武田会長が今期をもって退任されることが報告され、次年度からの次期会長には田中豊彦先生（6期生）が推挙されました。議場は満場一致でこれを承認し、新たな会長の誕生となりました。

世代を超えて交流した京都府支部の先生方

閉会の辞は、新会長の田中先生よりいただき、無事に総会は終了いたしました。

その後に行われた懇親会では、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、世代を超えた交流の場となり、参加者一同、楽しい時間を過ごしました。さらに有志は二次会へと場を移し、最後まで賑やかで笑顔あふれる一日となりました。

今回の総会は、世代をつなぐ大切な機会となり、改めて会の絆の深さを感じる場となりました。新体制のもと、鴨の会がますます発展していくことを期待しています。

（京都府支部　29期生　新田陽平）

大学院セミナー
大阪大学大学院医学系研究科 生体病態情報科学講座・岡本成史教授が講演
「細菌叢のディスバイオーシスと疾患発症リスクとの関連」

9月16日（火）、総合歯科医学研究所セミナールームにおいて、第437回大学院セミナーが開催された。講師には大阪大学大学院医学系研究科生体病態情報科学講座教授の岡本成史先生をお迎えし、「細菌叢のディスバイオーシスと疾患発症リスクとの関連」という演題でご講演いただいた。

岡本先生は、東北大学歯学部をご卒業後、東北大学大学院、日本学術振興会特別研究員（PD）、南カリフォルニア大学医学部、大阪大学歯学部口腔細菌学講座、福岡歯科大学感染生物学分野、医薬基盤研究所、金沢大学医薬保健研究域保健学系病態検査学講座、そして現在の大阪大学と実に多彩なキャリアを経験されて来られた。その中で感染症の3つのカテゴリーである外因感染、内因感染、ディスバイオーシスの全てのご研究をされて来られた稀有な研究者である。

微生物学・感染症学は、コッホの4条件に代表される外因感染から発展してきた経緯があるが、現在は内因感染、さらには常在菌叢を構成する細菌のバランスが破綻した状態であるディスバイオーシスの状態から、多くの疾患が起こることを解説していただいた。そして、外因感染、内因感染、ディスバイオーシスのそれぞれと疾患の関連についてのご自身の研究をご紹介いただいた。中でも現在のご専門である、皮膚常在菌叢（スキンマイクロバイオーム）と疾患の関連に関する研究にたどり着くまでの研究遍歴を、詳しくご紹介いただいた。

ご講演では、多彩な研究をされて来られた中で、「役に立たない経験はない」という言葉の重要性を説いておられた。これまで外因感染、内因感染、ディスバイオーシスの全てに携わって来られた経験が、現在の研究に繋がっているとも仰っていた。

最後に、岡本先生の同郷で、『アンパンマン』の原作者であるやなせたかし氏について触れ、テレビアニメ「それ行け！アンパンマン」の放送が開始されたのは氏が69歳の時であり、それまでの氏にヒット作はなかったことを紹介。「真面目に仕事をしていれば必ず花開く時が来る」と述べ、講演の締めとされた。自身に遅咲きのヒーローやなせたかし氏を重ねて努力を積み重ねて来られたことが伺い知れる、素晴らしいご講演であった。

（微生物学講座　教授　吉田明弘）

講演する岡本先生

松本歯科大学主催
第12回カムカムメニュー写真コンテスト作品募集

◇募集テーマ＝「よく噛んでおいしく健康に」
◇募集期間＝9月1日（月）～10月13日（月・祝）
◇応募方法＝本学ホームページをご覧ください。
◇発表・表彰＝11月8日（土）
◇お問い合わせ＝松本歯科大学社会貢献・地域連携推進センター（庶務課内・☎0263-51-2163）

10月行事予定

8日(水)（9日(木)合格者発表）　学校推薦型選抜
16日(木)～17日(金)　指定校・公募制（衛生学院）
19日(日)　演習Ⅳ（第6学年）
22日(水)　一日体験入学（歯学部）
25日(土)　大学院発表会
総合型選抜(Ⅰ期)・編入学選抜(Ⅰ期)
留学生選抜(C)

受験生の皆さんへ
見せてほしい　君の個性　君の情熱
総合型選抜（Ⅰ期）
試験日　10月25日(土)
出願期間　10月 6日(月)～10月22日(水)
一日体験入学
10月19日(日)
11月 9日(日)
開催時間 9：30～15：00（受付9：00～）
●キャンパスツアー　●ランチ体験
●模擬実習　●入試説明・進学相談　など
※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学　入試広報係
www.mdu.ac.jp

Matsumoto Dental University SNS Information
LINE
X
Instagram
facebook